

ンタンテイ近くのジャングルの中で新しいキイチゴ属の1種を見付けた。その場所には、*Rubus nepalensis* と *R. treutleri* が生えていたので、これら2種とよく比較したところ、新しいものはこれら2種間の雑種と思われたので、ここに記載発表することとした。また、一見大型の *R. nepalensis* と思われるこの植物は、以前の大場秀章氏を隊長とする調査の時にも、採集されていることがわかった。なお、この雑種は、花粉の稔性は全くないが、栄養繁殖によって増えているようであった。

□ 池上義信・石沢 進：新潟県植物分布図集第10集 563 pp. 1989. 植物同好じねんじょ会. ¥7,000 (送料別). こう言っては失礼だが、県単位の同好会としては大事業の完結編である。神奈川県のように根拠地に専門家がいての話ではないので、10年の間にはいろいろ波瀾があったのだろうが、多数の会員がペースを崩さずにここまで来た結束ぶりには感嘆する。各所に挿入された雑報の一つに、1988年に忽然と現れたスマガヤの大群落が、翌年には消失してしまったという記録がある。これなどは継続観察の重要さと共に、日付を伴わない資料に基づく分布図がいかにも空虚なものかを示している。分布図の中には、過去の分布図の上に新しい点を付け加えただけのものが多いからである。

(金井弘夫)

□ 今市の自然を知る会(編)：日光杉並木街道の植物 412 pp. 1989. 今市市歴史民俗資料館(今市市平ヶ崎 27-1). ¥2,600 (送料 ¥360). 旧日光神領内にあった例幣使街道など3街道では杉が植栽され、今日にまで比較的良好な状態で残っている。本書は根本正一氏をはじめとする表記の会の会員が全長 28 km に及ぶ杉が植栽された街道部分の植物相を昭和61年(1986)から4年間調査してまとめたものである。その結果、植栽や逸出した種も含めて807種が確認され、詳細な目録にまとめられている。うち300種ほどがカラー写真、約200種がおしば標本の写真として収録されている。並木の周囲の開発が進み、並木は野生種の生育にとっても貴重な場となっている様子などが神山隆之、高山豊明、羽瀬広、渡辺武雄氏らの解説からうかがわれる。ミドリワラビ、オオクジャクシダ、レンゲショウマ、ヤワタソウ、イワウメヅルなど37種について久保田秀夫氏の解説が興味深い。

(大場秀章)

簡単な解説に続いて四季のカラー写真98頁、標本のコピー205頁、市内での分布表25頁、標本目録30頁および索引よりなる。ページ大の標本コピーはFT4501リコーによるものだそうだが、紙質とマッチして細部が非常によくでており、これまでに見ていたコピー図録にくらべて抜群の出来ばえである。製作が手軽なことでもあり、今後見ならわれることだろう。

(金井弘夫)